

令和5年度後期学校評価結果について

立春の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より本校の教育活動にご理解ご協力を頂き、誠にありがとうございます。

さて、令和5年度後期学校評価（12月）の結果がまとまりましたので、ご報告いたします。今回の評価結果を受け、これまでの取組を見直し、さらに高い水準の学校教育を目指していきたいと思っております。保護者の皆様にはアンケートを通じて様々なご意見をいただきました。今後の参考にさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

評価結果の見方

※肯定的な評価（とてもそう思う・そう思う）の割合

A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満

※前期との比較

⇒ 変わらない ↑ 上昇 ↓ 下降

1. 学校運営全体に関わる項目

項目	評価の指標	回答者	評価	前期との比較
楽しい学校	学校は楽しい	児童	A	⇒
	児童は学校で楽しくすごしている	教員	A	⇒
	お子様は学校が楽しいと思っている	保護者	B	↓
積極的に行動	何事にもすすんで取り組んだりチャレンジしたりするようになった	児童	B	⇒
	自分の思いや考えを表出し、積極的に行動する姿が見られるようになった	教員	B	↑
	お子様は自分の思いや考えを表出するとともに積極性が感じられるようになった	保護者	B	↑
考えや思いを言葉で伝える	思ったことや考えたことを言葉で伝えている	児童	B	⇒
	自分の思いや考えを言葉で伝える力が育ってきている	教員	C	↑
	お子様は自分の思いや考えを言葉で伝えられるようになった	保護者	B	⇒
保護者との連携	児童のことについて保護者と相談し合えるよい関係ができています	教員	A	↑
	学校には何でも相談できる、また、各種お便りやHP等で学校の様子がよくわかる	保護者	B	↑

◇分析・考察

【楽しい学校】

概ね学校に対して前向きであり、学習や生活に満足している児童が多かったのですが、保護者の回答が前期よりも下がりました。「楽しくない」と思っている児童・保護者への個別対応を引き続き行います。

【積極的に行動】【考えや思いを言葉で伝える】

学校では積極的に行動する姿、考えや思いを言葉で伝える姿を目指して、取組や手立てを工夫してきました。特に学校行事や縦割り活動で高学年児童にその姿が顕著に表れており、低中学年児童にも大きく影響していると考えています。しかし場や相手によっては消極的になる場面も見られます。一人一人の特性や性格に配慮して、学校生活のあらゆる場面で、主体的に取り組める積極性や表現力を育てていきたいと考えています。

【保護者との連携】

児童に関する様々な課題は保護者と連携して改善・解決することを重視してきました。家庭訪問や面談を通して、保護者の思いと学校の考えを共有することは何より効果があることを実感しています。さらに保護者との連携を大切にしていきます。

2.学習に関わる項目

わかりやすい授業	授業はわかりやすい	児童	A	⇒
	ねらいを明確にした授業を行っている	教員	A	⇒
	お子様は「授業がわかりやすい」と思っている	保護者	B	⇒
表現の力	授業中、自分の思いや考えを発表したりノートにかいたりしている	児童	B	⇒
	授業の中で、自分の思いや考えを表出する場面を意図的に設けている	教員	A	⇒
家庭学習	学年で決められた時間（10分×学年）、家で勉強している	児童	C	↓
	児童は家庭学習に粘り強く取り組んでいる	教員	B	↑
	お子様はきちんと家庭学習をする習慣が身についている	保護者	D	↓

◇分析・考察

【授業改善】

教員は授業の中で児童に「なるほど」と実感させるために授業の工夫を行い、互いに授業を見合い、外部講師の指導・助言を受けるなどして、課題や改善点について協議し、授業改善を図ってきました。すべての児童に「なるほど」が生まれる授業を目指して、さらに授業改善に努めます。

【表現の力】

児童に考えを「話す」場や「書く」場を授業の中で必ず設けてきました。話すことや書くことに抵抗があり苦手意識を持っていても、タブレットを活用したり、スモールステップで取り組ませたり、個に応じた手立てを工夫していきます。

【家庭学習】

学校では家庭学習の内容の工夫に加え、頑張りを認める手立てにより、児童はしっかりと家庭学習に取り組んでいると捉えています。しかしながら児童・保護者はそうではないことがわかります。家庭学習の目的や効果を教員・保護者・児童が共有することが大切であると考えています。

3.生徒指導に関わる項目

学習規律	学習のきまり（メロディチャイム着席・姿勢・忘れ物をしない）を守っている	児童	B	⇒
	授業の中で学習規律が徹底されている	教員	A	↑↑
	お子様は鉛筆を削る、忘れ物をしないなど学習の約束やきまりを守っている	保護者	D	⇒
あいさつ	相手に伝わるあいさつができています	児童	B	↓
	すすんで挨拶をし、よりよい関係を築こうとする児童に育っている	教員	B	↓
	お子様はきちんと挨拶をしている	保護者	B	⇒
自己肯定感	周りの人にほめられたり、はげまされたりすることでやる気や自信をもつことができています	児童	B	⇒
	褒めて認めて励ます指導を心がけ、児童の自己肯定感が高まっている	教員	A	⇒
	お子様は周囲が褒められ、認められ、励まされることで自己肯定感が高まっている	保護者	B	⇒
いじめ	いじめられたり、無視されたりすることなく安心して過ごしている	児童	B	⇒
	児童はいじめられたり無視されることなく安心して過ごせるよう指導している	教員	A	⇒
	お子様はいじめられたり無視されることなく安心して過ごしている	保護者	A	⇒
思いやり	道徳の授業や学活を通して思いやりのある行動がとれている	児童	A	⇒
	道徳教育の推進や温かい学級づくり等の手立てを通して児童に思いやりの心が育っている	教員	A	⇒
	道徳教育の推進や温かい学級づくり等の手立てを通してお子様に思いやりの心が育っている	保護者	A	⇒

◇分析・考察

【学習規律】

学習規律の様々な内容の中でも授業の構えにあたる「メロディチャイム」着席に全職員で集中的に取り組みました。ほとんどのクラスでメロディチャイムが鳴っている間に授業の準備を完了し、本チャイムと同時に授業が始まっています。その他の学習規律「鉛筆削り」「忘れ物」等については学習に集中するため、さらには社会的自立のために必要な内容であり、ご家庭のご協力も必要です。よろしくお願いいたします。

【挨拶】

本校では挨拶をすることが当たり前になり 4 月当初と比較しても挨拶をする児童がたいへん増えて
います。児童と教員の肯定的回答が減っていますが、この結果はさらなる挨拶の向上（自分から、相手
に伝わる声、誰にでも）への意欲と捉えています。

【自己肯定感】

自己肯定感を育むためには「自己存在感を得ること」「共感的人間関係があること」「自己決定できる
場にいること」「安心・安全な環境にいること」の 4 つが大切です。教員はこの 4 つについて学校生活
の多くの場で意識し取り組んでいます。ご家庭や地域でも意識することで、児童はより自分が価値ある
幸せな存在であることを自覚し自己肯定感が高まると考えています。

【いじめ】

児童・保護者の訴え、アンケート、教員の日々の実態把握により早期発見、迅速対応を心がけていま
す。今後はいじめの多様化、複雑化により SNS などを使った大人には見えにくいいじめも予想されま
す。いじめは絶対にあってはならないといったいじめ根絶の意識を強く持ち、引き続きいじめのない学
校・学級づくり、互いの違いを認め尊重し合える集団作りに努めます。

【思いやり】

結果のとおり、本校の児童の多くは思いやりの心を持ち、友達に優しい気持ちで接することができます
。感情的になりトラブルになったときでも、冷静にしっかりと自分のこと見つめ直せる児童がほとん
どです。道徳科の授業でも人としてよりよく生きることについて深く考え、実生活で実践している児童
もたくさんいます。

4.特別活動に関わる項目

行事 児童会 学級会	学校生活や行事などでいろいろな友達との関わり楽しんでいる	児童	A	⇒
	児童の主体的な活動や行事を工夫し、実践している	教員	B	⇒
	お子様は学校生活や学校行事等でいろいろな友達との関わりを楽しんでいる	保護者	A	⇒
体力	運動をすることや体を動かすことを楽しんでいる	児童	B	↓
	児童が運動の楽しさを実感できるよう工夫している	教員	A	⇒
	お子様は運動したり、体を動かすことを楽しんでいる	保護者	B	⇒
基本的 生 活習慣	早寝・早起き・朝ごはんを心がけ、規則正しい生活をしている	児童	C	↓
	早寝・早起き・朝ごはん等、規則正しい生活ができるように指導している	教員	B	⇒
	お子様は早寝・早起き・朝ごはん等、規則正しい生活をしている	保護者	B	⇒

◇分析・考察

【行事・児童会・学級会】

コロナ禍で人との接触が制限され、主体性、積極性、コミュニケーション力が育ちにくかったことを
踏まえ、コロナが 5 類に引き下げられたことを機会に意図的に友達と話し合ったり、作業をしたりする
取り組みを行ってきました。新たな学校行事として「縦割り海岸清掃遠足」を行いました。また児童会
委員会で児童主体となって様々なイベントを企画しました。その中で多くの児童が友達と関わることを
楽しみ充実した学校生活を送っていたと捉えています。

【体育】

概ね本校の児童は体を動かすことを楽しんでいます。運動は心にも体にも良い影響があること、友達
と協力したり友達を思いやったりする優しい心が育つことなど、体を動かすことによって得られる効果
が実感できるよう取り組んでいきます。

【基本的生活習慣】

児童が自分の体のことを自分で知り、自分で守ろうとする意識を高めていく必要があります。養護教
諭、栄養教諭が中心となり、学校医、学校歯科医、学校薬剤師からの助言や指導も参考にしながら自己
指導力を高めたいと考えています。

5.保護者からのご意見に対する回答（全体に関わるもののみ）

○遠足や運動会等の行事の実施日

遠足や運動会は金曜実施にした方が、翌日休みで子どもたちの負担が少ないとのご意見を頂きました。また、子どもたちにとっても大きな行事はいつも以上に意欲的に取り組むことで、気力や体力を消耗し、翌日の授業に影響している場合があることも学校では把握しておりますので、金曜実施については今後検討していきます。同じ曜日に学校行事が偏ると特定の教科の授業時数が不足することも考慮しなければなりません。今後は、学校行事の日にちや曜日についてはこのようなことに配慮して設定していきたいと考えています。

学校行事の実施にあたり、日にちや曜日によっては、保護者の皆様にとって、都合がつきにくい場合もある中、いつもお弁当や持ち物のご用意等でご協力、ご理解を賜り、感謝しています。

○学校指定シューズ

指定のシューズの不具合は、学校からも取り扱いをしている業者さんにお伝えし、相談や改善をお願いしております。

今後、使用するシューズは指定を外す方向で検討する予定です。指定を外すことによって生じる課題について解決の方策等の数々の検討が必要です。多方面からのご意見や助言、実際に使用している児童の様子を参考にし、慎重に進めたいと考えています。

○欠席時の学校からの連絡

欠席が続く場合、担任から主に保護者の方の携帯電話にご連絡し、お子様の様子を聞かせて頂いたり、諸連絡をお伝えしたりするようにしております。しかしながら保護者の皆様と担任のタイミングが合わなかったり、学校の電話が18時30分に留守番電話に切り替わったりして、連絡がつかないことが、あり、ご心配をおかけすることがありました。

そこで、本校では子どもたちのタブレット端末の毎日の持ち帰りを検討しています。アプリ Microsoft Teams を活用することで、担任とご家庭、特に担任とお子様ご自身が都合のつくときに連絡を共有することが可能となります。

加えて感染症などで長期に欠席せざるを得ない場合や、急に欠席することになった場合も、オンラインでお子様と担任とのつながりを保つことができるのではないかと考えています。

○気温に合わせた服装

ここ数年の気温の変化には、学校としても柔軟な対応が必要であると考えています。学校では基本的な夏服・冬服の指定をしていますが、着用期間の指定はしておりません。夏でも気温の低い日は上着（制服）の着用は可能です。同様に冬でも気温の高い日は、半袖シャツで登校することも可能です。

ただし、ネームをつける、シャツを入れる、重ね着は上着（制服）の下で、など身だしなみをきちんとすることについてはご理解、ご協力をお願いいたします。